

■開催日：平成28年4月28日（木）15:30-

■場所：サン・スポーツランド

■参加人数：15名

■担当議員：田中、笠原、阿部、門田、山田

榊、作井、小川、盛多

## ●主な質問、意見

Q. ペンション街に隣接する町有地をタダ同然で売却しようとしているようだが？

A. 町有地の等積交換については経済建設常任委員会で説明受けているが、地方自治法では議決基準があり、今回は議会議決の対象外となっている。

Q. 起債を減らして自力で収入を増やす工夫はないか？

A. 自主財源を増やし起債を減らすことは理想的だが、自主財源が増えると国からの交付税が減らされるという残念な仕組みになっている。

Q. ペンション街など居住地にゴミステーションを設置すべきと思うが。

A. 引き続き地域で話しあっていきたい。

## ●主な要望事項

・国際リゾートに向けたまちづくり、ロードマップ。観光におけるソフト面の充実を。

⇒経済建設常任委員会へ

・将来のまちづくりを見据えた教育行政を。⇒厚生文教常任委員会へ

・旅館業法などの違反者に対する立ち入り検査の実施を。⇒町長へ

## 会場の風景

サン・スポーツランド 平成28年4月28日(木) 15:30-



## 倶知安町議会『議会報告会』報告書

担当チーム	C班（主幹） 田中、山田、門田、笠原 A班（サブ） 榑、 作井、小川、盛多
開催日時	平成28年4月28日（木） 15時30分～
開催場所	サンスポーツランド
参加人数	15人

### ■主な質問、意見、要望

#### Q. ① 常任委員会の仕事について

常任委員会が3つあるが、それぞれどんなことをやっているのか。

- A. ① 役場の仕事を課ごとに大きく3つに分類して、それらの仕事に対応する形で3つの常任委員会がそれぞれ分担して調査や審査を行っている。例えば、総務課や総合政策課の仕事は総務常任委員会で、建設関係の仕事は経済建設常任委員会で調査・審査している。

#### Q. ① 起債と自主財源について

今年は起債が増えている。起債は借金なので、できるだけ起債を減らし自力で収入を増やすような工夫は何かないか。

##### ② ニセコ観光圏について（意見）

ニセコ観光圏に関する予算があるが、観光圏となるとニセコ、蘭越が含まれるが、新幹線も来ることなのでもっとひらふや倶知安という名前をPRして収入増につながるようにすべきと思うが。

##### ③ 原子力防災について（質問）

原子力防災関係に520万円ほど予算がつけられているが、このくらいのお金で本当に人命にかかわる事故への対応ができるのか。専任の職員が配置されているのか。

- A. ① 新年度予算に起債が多くなったのは、統合保育所や給食センターなど大きな事業が重なり、国からの補助金が少ないため町自らが借金をしてその財源に充てざるをえないという状況になっている。借金を増やすとその返済に充てるお金も多くなるので、予算全体の中で自由に使えるお金が少なくなる。自主財源を増やし起債を減らすことが理想の形だが、自主財源が増えると国からの仕送り（交付税）が減らされるという残念な仕組みになっている。しかし、起債を減らし自主財源を増やすということは自由に使えるお金が増え、結果として町の活性化につながるということになる。

② ニセコ観光圏は観光庁の認定に基づいて行われている。国はこの地域をニセコエリアと見ており、その総称として「ニセコ観光圏」という冠をつけて認定している。観光圏はスタートして3年になるが、この間の主な事業としては、このエリアでの経済波及効果を2年間かけて調査した。年間で動いているお金の総額が368億円という数字が出てきた。これは実態経済で観光に消費されたお金で、コンドミニアムなどへの建設費などは含まれていない。この調査には約1000万円のお金がかかっているが、3町の費用負担割合は倶知安とニセコがそれぞれ4割、蘭越が2割となっている。国からの補助が4割あるが、こうした費用負担割合のなかで観光圏としての様々なイベントを行っている。

③ 町としては一般的な防災計画のほかに原子力災害に特化した原子力防災計画を策定している。この計画に基づいて毎年10月、北海道が主催する原子力防災訓練に合わせた形で町としても訓練を行っている。特に、観光客の多いこのひらふ地域で

しっかりとした原子力災害に関する避難訓練ができるかどうかが課題となっている。町としてもそのことについては認識をしており、どこまでやるかはわからないが、今後は観光客とくに外国人や冬期間を意識した訓練をやっていきたいと言っている。職員の配置に関しては、防災対策室というのがあり、職員2名が配置されている。

Q. ①ふるさと納税について（質問）

A. ① 今年では2000万円ほどの寄附を予定している。去年の12月からインターネット業者を活用して返礼品事業を開始した。返礼品は地元の事業者から提供してもらっているが、損をしないような形になっている。

Q. ①ふるさと納税について（質問に関連しての意見）

去年の12月から返礼品を始めたとのことだが、少し遅きに失したという感じがする。上士幌町では力を入れて取り組んだ結果、多くの寄付金が集まり、そのお金を子育て支援に回すなど成果を上げている。倶知安町も大自然があるのでそれを活用した形で寄付金をもっと多く集めることはできないか。

A. ① 返礼品は品物だけではなく、もっと自然を活かしたアクティビティーなものを取り入れて、人自身が倶知安に来て楽しんでもらえるようなことも考えていきたい。

Q. ①ひらふ高原地区まちづくり計画について（質問）

前期と後期に分かれているが、それぞれの期間はどうなっているか。

②ひらふ観光中核施設について（質問）

計画が不十分だということで予算が修正されたが、議会としてはどの段階まで行けば計画を認めるのか。その点について議会でどのような議論をしているのか。

A. ① 前期は平成30年度まで、後期は平成31年度からとなるので、現在はまだ前期ということになる。

② この計画については国際リゾートまちづくり検討委員会というのがあってそこで検討を進めてきたが、平成27年度中には開催されなかつた。平成30年度中に施設を竣工していないと国に補助金を返さなければいけないという中で、役場としては当初計画と違うけれどもなんとか施設を作りたいということで変更した計画を出してきた。それに関する基本設計・実施設計費を新年度予算に計上した。しかし、われわれ議会としてはしっかりとした機能を持たせたものを作るためしっかりと議論する必要があることから、予算を認めるわけにはいかないということで減額して修正可決した。したがって、住民への周知をしっかりとやり、検討委員会や議会でもしっかりとんでもらった上で進んで行くべきと考えている。

②の関連

基本の計画を変えたのであれば変えたなりの理由を住民や検討委員会にしっかりと説明をし、変更した計画についてもしっかりと説明した上で予算を計上するのが正しい手順なので、その手順を踏んで欲しいということで議会のみんなもそれに賛成し、そのように進むことを望んでいる。

②の関連

補足するが、「僕らは」とか「我々議会としては」とか使っているが、それはそうではない。議会ではそれぞれがそれなりの考えがあり、結果的に修正動議が可決されたということだ。すべて一枚岩になった同じことを考えて進めてきたわけではない。そここのところしっかりと議論しないといけない。「我々」とか「僕らは」という言葉の使い方をきちんとしないといけない。追加ということで、そのことを補足しておく。

②の関連

いま言われた通り、この件は起立採決によって修正可決された。町長の原案に対して賛成したのは小川議員、笠原議員、古谷議員、三島議員。原田議員は原案、修

正案とともに反対。阿部議員は欠席。その他の議員は修正案に賛成という形で賛成多数で可決された。

Q. ①国際リゾート計画について（意見）

国際リゾートに向けたまちを作るという点に関しては地元も町もみんな一致しているのに、中核施設に関する先日の説明会では町側の提案に反対の意見ばかりが目立った。是非、町の方でしっかりとしたロードマップや全体の予算などを示して欲しい。そうすれば、もっと議論が噛み合っていくと思う。

②防災上の違法問題について（意見・要望）

防災設備の関係の仕事をしているが、こちらに移住してからの1年半で防災設備に関して非常に多くの相談を受けている。旅館業法などの規定に違反する外国人の成功体験の話も聞いた。消防、警察、行政などが合同で立ち入れ検査をできるはずなのに、なぜ違法者を放置しているのか。違法の成功体験がまじめにやっている事業者の中に広まっていく危険もある。是非、議会の方から役場の方に働きかけて、違法者たちへの立入り検査をやって欲しい。

- A. ② 違法建築物などに関しては振興局、町などの関係当局に対し、十分に対応するよう働きかけている。建築基準法上の指導は道、形や色については町という具合に縦割りの状態になっている。

Q. ①ゴミステーションの設置場所について（要望）

地元住民も住みたいと思えるリゾート地を作るという視点で考えた場合、ゴミステーションの設置場所を考慮すべき。今は車に積んで持って行かなければならない所にあるが、ペンション街などの居住地にも置くべきと思う。

②町有地の売却について（質問）

ペンション街に隣接する町有地を只同然で売却しようとする動きがある。町の財政がひっ迫している中、そのようなことでいいのか。

- A. ① 土地の所有者は外国人が多く、売りに出している自分の土地にゴミステーションを置くと土地の価値が下がってしまうという話が多くなって、結局今の形になってしまった。ひきつづき地域で話し合っていきたい。
- ② 今の町有地の等積交換については経済委員会で説明を受けている。ただ、町有地の売却については地方自治法で議決の対象となる基準が定められており、今回の土地については議決の対象外となっている。ただ、町長に対しては町有財産は町民みんなのものなので、慎重な判断のもと有効活用するよう求めている。

Q. ①世界に誇れるリゾート地について（意見）

ハード面は充実してくると思うが、一番大事なのはソフト面であり、迎える側の人づくりだと思う。町全体に言えることだが、サービス業をやっているのに「いらっしやいませ」が言えない所が多い。ひらふに住んでいるので、人間のレベルが上がっていかないと恥ずかしい状態になってしまわないか懸念している。ハード面の充実も必要だが、みんなで成長していくことも忘れずにやっていければと思う。

Q. ①教育行政について（要望）

将来の町づくりを見据えた教育行政を進めて欲しい。例えば、障がいを持つ子は中学を出ると町外の高校に行かないといけない。倶知安にいたいと思っても離れざるを得ない。倶知安が好きでも将来が見えないとなるとここから離れていってしまう。町の将来が見える行政を作って欲しい。

◎今後の対応

A. 常任委員会等で調査を行う事項

- ①将来のまちづくりを見据えた教育行政（厚生文教常任委員会）
- ②リゾート地のごみステーションの設置（厚生文教常任委員会）
- ③国際リゾートに向けたまちづくり、ロードマップなど  
（経済建設常任委員会で継続調査中）
- ④観光におけるソフト面の充実  
（経済建設常任委員会で継続調査中）

B. 町長へ町民の要望として伝える事項

- ①旅館業法などの違反者に対する立ち入り検査の実施